

平成22年5月31日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007 ～ 2009
 課題番号：19520398
 研究課題名（和文） 奄美諸島方言における社会構造の変容と習俗語彙の変容過程の研究
 研究課題名（英文） The transformation of the social structure in the Amami Islands dialect and the study of the transformation process of the manners and customs vocabulary
 研究代表者
 町 博光（MACHI HIROMITSU）
 広島大学・大学院教育学研究科・教授
 研究者番号：10116668

研究成果の概要（和文）：急激に変容する奄美諸島方言で、いくつかの伝統的な行事に参加した。2時間ほどの行事をビデオに収録することができた。これを文字化して、実際にどのような場面でいわゆる標準語が使用され、どのような場面で方言が使用されているかを観察することができる。開会のあいさつや来賓のあいさつ、また司会進行といった場面では、ほとんどがいわゆる標準語である。それに対して、個人的な呼びかけや話は方言が使われている。奄美諸島における方言の機能を浮き彫りにすることができた。

研究成果の概要（英文）： It participated in some traditional events in the Amami Islands dialect rapidly transformed. The event was able to be collected to the video for about two hours. The dialect can be observed whether to make this a character, by what scene for a so-called standard dialect to be used actually, and by what scene to be used. In the scene such as the greeting of opening a meeting, the guest's greeting, and the chairperson progress, most is so-called standard dialects. On the other hand, the dialect is used as for a personal calling and the talk. The function of the dialect in Amami Islands was able to be brought into relief.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：方言 共通語 奄美諸島 与論島方言 習俗語彙 社会構造 年祝い

1. 研究開始当初の背景

最近の全国的な標準語化の中で、奄美諸島方言の急速な方言の喪失・崩壊は他の琉球方言域と比べてもその速度が格段に速い。本土方言と比べて、全国共通語との乖離が大きく、地域共通語等の中間的な方言を経ずに、標準語化することが、その理由である。奄美諸島方言に限らず、現代日本語方言の喪失・崩壊が社会構造の変容にあることは明らかである。社会構造の変容と方言の崩壊を具体的に論じた研究は少ない。しかも、いくつかの単語や音声・文法項目などの変容過程を追う研究が多かった。本研究は、社会のなかで、現在方言と標準語がどのような使い分けにあるかを、年祝いという習俗の全体の中で考察したものである。

2. 研究の目的

急激な社会変容が、言語の諸要素にいかん影響を与えるのか。とりわけ語彙は生活と密接に関係している。なかでも習俗語彙は、社会の規範となるいろいろな伝統的慣習や規範といったものと密接に関連している。社会構造の変容が、習俗語彙にどのような変容を迫っているのか。またどのように新しいものを受け容れているのか、語彙研究を通して社会の変容の実際に迫りたい。

3. 研究の方法

- (1) 奄美諸島10地点で習俗語彙の調査を実施する。
- (2) 具体的な習俗語彙の使用場面をできるだけ多く採録する。
- (3) 得られた習俗語彙を体系化する。
- (4) 習俗語彙を体系化したのち、社会構造の変容との関連性を考察する。

4. 研究成果

(1) 与論町で、年祝いに参加する機会を得た。2時間ほどの行事が、どのように進行されているかをビデオに収録することができた。

(2) これを文字化することによって、実際にどのような場面でいわゆる標準語が使用され、どのような場面で方言が使用されているかを観察することができる。

(3) 開会のあいさつや来賓のあいさつまた司会進行といった場面では、ほとんどがいわゆる標準語である。それに対して、個人的な話や呼びかけなどには方言が使用される。

(4) 本土方言のこのような会の進行と比較すると、方言と標準語の使用差や場面差が的確に把握できるだろう。

(5) 初年度に観察した葬送儀礼の場面での方言と標準語の使用実態を解明し、比較していくことによって方言と標準語の使用法が明らかになると考える。

(6) このような観点から、年中行事あるいは祝いごとや葬送などの民間儀礼を分析した研究はこれまでに前例がない。

(7) 以下に、方言と標準語が巧みに使い分けられている箇所をピックアップする。

(8) 方言と共通語が巧みに使い分けられている。あいさつ全体を通して共通語が使われているが、呼びかけ表現や「かわいそう」だといった感情的な表現は方言を使用している。

(9) 宴会の流れも、本土風と琉球風がまじっている。スピーチの方法や会の流れは本土風で、個々の踊りや酒の注ぎ方などが依然として沖縄風である。社会構造がどのように変化していくか興味のあるところである。

(10) 以下に年祝いの実際を、一部分文字化したものを掲げる。

表記法

- ① 方言はカタカナ表記とし、共通語は漢字ひらがな交じりで表記する。また、はる方言の表記は話部単位とし、共通語は話部に読点も適宜使用することとする。
- ② 発言者を左に記す。
- ③ 時間は全体で1時間20分ほどである。時間は本文中に表記しない。
- ④ 発言の重なり等には示さない。
- ⑤ 方言の会話部分には共通語訳を付し、たゞでできるだけ単語ごとに逐語訳になる分、よも心掛けたが意識のなっている部分に出現する方言の共通語訳は()で示す。
- ⑥ 注記は<>で示す。
- ⑦ 司会の発言や正式なスピーチ以外、会場の中で話される会話はほとんど方言でなされている。これらも聞き取れず限り文字化したとすると、また話者が特定できるばあい、これも注記する。

<文字化資料>

くんとוגんじゅう (50歳の年祝い)

司会：えー、祝辞を賜りたいと思います。えー、もと町長でいらっしゃいました福富三先生、よろしく願いいたします。

福：トートウ ダー。(ありがとうね。) 皆さん新年あけましておめでとございます。えー、寅年でございますね。いやあ、寅という虎は、どの方々を見ても虎のような気がしますね。(大笑い) えー、チュモール(年齢の一回り)は12年。(身振り)それに4を掛けますと、48で49。12掛ける5は61。アトゥ チュモール(あと一回り)が来ると61だなあ。ダンジエイ。ワーガ パギティ アッセ チュムチョイチ ムーティ……。ワヌエンカウトウルシギサル ピチュンチャー…。

(なるほど、私が禿げて ああ 残念だと思って…。私よりも 偉そうな 人が…)

(大笑い)ほんとにねえ。月日の経つのははやいもので、ほんとにお母さんがたも、皆(髪が)抜けているよ。フツヤ ワカラダナデール ヤー。マンナカヌ ピチュン 抜けとりますよ。あんたがたは 座っているからでほんとに 私は 立っているからわかる。アー ナグリャーヤードー(ああ か

わいそうに ねえ)と思うことですが、それだけで大事な世の中になってきていると思うのです。

司会：次は竹下先生にお願いいたします。

竹下：フクセンセイヤ ワーガ ショーガ ッコー ヨネンセイヌ バンヌ センサー エータン。(福先生は 私が 小学校4年生の時の先生だった。)ウレーセンセイヌ アトゥナン ワンカティ パナシ シュミューサー(そりゃあ 先生の あとで 私に話しを させるのは)ほんとに こんないじめはないと思う。(笑い)えー せつかくですからワヌン パナシ シチミャン。(私も 話しを してみよう。)ヌーナティ クントウグンジューチュンガ シツチュンミー。(どうして くんとוגんじゅうというのか 知ってる?)クントウグンジューチュンサー ヌーナティ クントウグンジューチュンガ。(くんとוגんじゅうというのは どうして くんとוגんじゅうというのか。)49の時は、49の時を、くんとוגんじゅうというのは 知っているだろう。ヌーガ クントウグンジューチュンガ。(どうして くんとוגんじゅうと 言うのか。)アッシ フクセンセイ ナローサリティ タールン ワカラジ。(ああ 福先生に 教えてもらったので だれも 知らない。)(一同大笑い)今度 来るときは 50になるから クントウグンジューチュンドー。(くんとוגんじゅうと 言う んだぞ。)終わり。(大笑い)

司会：ありがとうございました。そうじゃないかなとは 思っていたのですが。トートウガナシ。(ありがとうございました。)それでは開宴に移る前に、チク舞を 踊っていただきたいと 思います。川上道代さんと相方は 見ていただければ わかると 思います。

では さっそく 踊っていただきます。
会場での会話 (不特定) :

[アセ フマーティ クーパー。ヤイ。(あ
あ こっちに 来い よ。おい。)]

[ワイ ジョージ エイ。(あれ <踊りが
>上手 だ。)]

[ジョージ ドー。(上手だ よ。)(拍手)]

[ジョージ エータン。(上手 だった。)(拍
手)]

それでは恩師の北原先生に乾杯の音頭を
お願いいたします。

北原：ほんとにあけましておめでとうございます。また、くんとうぐんじゅう 誠に お
めでございます。ほんとに早いもので、
49歳、8歳。こうしていると まだ14・
5歳ごろのことしか思い出せません。

皆さんも各界各層でがんばっていらっし
やるようで、たいへん力強くうれしく思いま
す。これからも皆さんがますます発展します
ように。皆さんの健康を祈って乾杯いたしま
す。

乾杯。ありがとうございました。

<歓談>

司会：これから恒例の献法をいたします。前
に出て、これを全部開けていただきます。前
に出ていただくのは、市来盛広、吉田哲彦、
森敏秀、南豊文の4人です。代表で、あいさ
つを、実行委員の杉豊次がおこないます。

杉：[ムチ クーパー。(＜お酒を＞ もって
こい よ。)]

えー それでは よろしくお願ひします。
もう、早い者勝ちで…

[ニャー チュッカー イッチョーランカ
ワカランクトウ… (もう一度会えるかどうか
わからないから…)]

<4人で乾杯する>

[サイコー エイ ドー。(最高 だ よ。)]

[トー チー ヨー。ハッサ ナー。(いい

と 言って よ。これだけ ずつ。)]

[エイショー ヤイ。(英勝 よ。)] [ワイタ
ンデー (あらまあ) <酒をたくさんつがれて。
>] [ドーカ トートウ。(どうも ありがと
う。)]

[イッチャンカ ドー。(少しだけ だよ。)]

[ひさしぶりです。ドーカ。(どうも。)]

[トヨジ ウブクァー ヌマス ノー。(豊次 多
くは 飲ますな よ。)]

[ウマウマ ウマナイ ヌマシ エイ。(そこそこ
そこに 飲まして よ。)]

[チューフー ナティ ナージ ダー。(中風に
なって いけない よ。)]

南：それでは私から飲むからね。<酒を飲む
>あ、おいしい。よっし。<酒をコップに注
ぐ>私から。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

[雑誌論文] (計3件)

①町 博光、沖縄大和言葉の文末詞、『日本
語教育学を起点とする総合人間科学の創出』、
査読なし、2009、pp61-pp68 巻なし

②町 博光、ISMATUL KHASANA他3名、
現代日本語の位相論的研究、『日本語教育学
を起点とする総合人間科学の創出』、査読な
し、2008、pp149-pp180 巻なし

③町 博光、李珍他9名、現代日本語と諸外
国語の男女差の対照研究、『日本語教育学を
起点とする総合人間科学の創出』、査読なし、
2007、pp127-pp156 巻なし

[学会発表] (計0件)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

町 博光 (MACHI HIROMITSU)

広島大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：10116668

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：